

〈日本SPF豚研究会誌〉

「All About Swine」投稿のお願い

SPF豚の普及に役立つ調査・研究・論文及び防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号及び住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めないが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能のように白色紙または方眼紙に墨汁で記入する。写真は原寸印刷が可能のように原則として横7cm丁度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒039-25 青森県上北郡七戸町字海内31 農林水産省家畜衛生試験場・東北支場 山本孝史」宛とする。

〔編集後記〕

坂野氏よりご投稿頂いた論文「SPF豚に認められたMPS様病変」は学問的に実にキッチリとまとめられております。関係者必読。

平成5年秋より2, 3の県で哺乳豚の下痢が多発し相当数の死亡が認められました。しかし家畜保健衛生所が相談を受けたのは発生から半年近く経過した後だったということです。家畜衛生試験

場九州支場の病性鑑定の結果、豚流行性下痢（PED: Porcine Epidemic Diarrhea）と判明したのですが、何故こんなに家畜保健衛生所に相談するのが遅れたかと云いますと、いろんな民間の検査機関で原因がわからず、やむなく家畜保健衛生所に相談したというのが真相のようです。このように、家保に相談するのは本当に困った時だけで、ありきたりの呼吸器病や下痢では絶対に相談しないし、家畜保健衛生所の車が止まっているだけで周りの農家から何か変な病気が出たのではないかと疑われやしないかと恐れるという風潮すらあるやに聞いております。しかし厳しい畜産経営が益々迫られるこれからは、ロハで精度の高い検査をしてくれる家畜保健衛生所をもっと利用してはいかがでしょうか。

平成6年10月に出版された「ウルグアイ・ラウンド農業合意関連対策大綱」の中で「力強い農業構造・農業経営の実現」のために講ずべき対策の一つとして、「生産現場に直結した新技術の開発」が挙げられております。私の所属する家畜衛生試験場は、研究の出口として、経口ワクチンや、一回の注射で何種類もの疾病を予防する混合ワクチンの開発等、衛生技術の省力化に向けて研究のピッチを大幅に上げなければならなくなるでしょう。

今年も残り少なくなりました。どうか良いお年をお迎え下さい。 (山本)

「All About Swine」

第6号 1994年12月発行 定価 1,500円
発行所 日本SPF豚研究会
〒305 つくば市観音台3-1-1
家畜衛生試験場